

パセリの木

み群 杏子

(登場人物)

風人

パセリ (芹沢)

フート少年

先生 (植原)

みづえ

キキ

草子

シグナル

宅配屋

(場所)

山に囲まれた地方都市

下宿屋エルムハウスのダイニング

(時)

1999年・冬 と 1974年・夏

舞台上に細く長いテーブル1つに椅子
6、7脚

上手は玄関へ

下手は2階及びパセリの部屋へと続く

中央奥はキッチン
前面は大きな窓

1 1999年・冬 プロローグ

風人（ナレーション） 叔父さんが、死んだ。
骨は僕が海に流した。それが叔父さん流
の死に方だった。

すべてが終わったあとで、僕は弁護士か
ら一通の手紙を受け取った。叔父さんか
らの手紙だった…

冬の弱い日差しの中に、
コートを着た風人、立っている。

部屋を見回す。テーブルや椅子を、
古い傷を確かめるように、指で辿っ
ていく。

部屋の片隅には、置き去りにされた
ギター。

後方には、止まり木、あるいは三角
梯子がある。

風人、ポケットから封筒を取り出す。
叔父からの手紙だ。封を開けて、読
み出す風人。

パセリ（声） やあ、風人。俺が、どこかの
国で、くたばって

しまったあとに、君はこの手紙を受け取
るだろう。君に宛

てた、最初で最後の手紙だ。

あの夏を境に、俺は放浪の暮らしに入
った。もちろん、俺だって、こんな一生
を、始めから決めていたわけではないさ。

始めは、どこかでぼんやりと人生を考え直してみようって、そんな感じで旅に出たんだ。まあ、それが性に合ってたんだな。人は、知らないうちに、年を取ってしまうものだ。それは、日本にしようがどこの国にしようが、同じことだ。ただ、この家だけは売れなかった。下宿屋をやめたあとも、日本に帰ってくるたびに、俺はここに戻ってきた。

あの時、君はまだ、子どもだった。だが、君には知る権利がある。ここで何が起こったか、それを境に、俺たちがどう変わっていったかを。

すべては、あの夏からはじまったんだ。

風人 あの時…

3 1974年・夏 チュウタイスト

風人 そして、草子がやってきた。僕は草子を相手に、さ

つそく、ムーニイさんの話をしていたっけ。

明かり、入る。草子、入ってくる。

草子 それ、本当？

フート（声） 本当だよ。

フート、キッチンからカルピスの入ったコップをふたつ、おぼんにのせて、危なっかしいかんじで、運んで

くる。

フート はい(と、テーブルに置く)。

草子 あ、ありがとう。いただきまーす(と、飲む)。

フート (じっと見て) おいしい？

草子 うん、おいしい。

フート よかった(と、自分も飲む)。

草子 でも、じゃ、他の魚は、みんな、どこに引越して

ちゃったの？

フート 知らないよ。

草子 ひよっとしたらさ、あの沼の奥の森に、運命共同体

みたいなものがあるのかもしれないわよ。

フート うんめい…？

草子 共同体。そこでね、逃げ出した魚たちが、みんな一

緒に暮らしているの。ムーニイさんも、

本当はそこに行

きたいのかもしれないわね。

フート …(考え込んでいる)

草子 (笑いながら) 深く、考えないで。ごめん、名前、

なんてったつけ。

フート 僕？

草子 うん。

フート フート。風の人って、書くんた。

草子 フートか。

フート 違うと思うな。

草子 なに？

フート ムーニイさんは、ひとりになりた

かったんだよ。

だから、沼に残ったんだ。きつとそうさ。

草子 ま、そういうやつもいるわよね。

フート かわりものなんだ。… 暑っつー

(テーブルの

上に上半身を投げ出す)。

蝉の音がうるさい。

フート (投げ出した姿勢のまま) シュ

ワ シュワ シ

ユワ シュワ シュワ シュワ シュ

ワ シュワ シュ

ワ シュワ シュワ (蝉の声を真似して

いる) …

草子 …

フート 父さんがつけたんだ。

草子 え?

フート 僕の名前。風は自由なんだってさ。

どこへでも行けるし、だれも、捕ま

えられないんだって。

草子 お父さんって、さっきの?

フート 違うよ。あれは叔父さん。叔父さ

んには子供はい

ないよ。独身だもん。

草子 そうよね、変だと思った。

フート なにが変?

4 1974年 夏 夜の時間

パセリ、タオルを首に巻いて、入っ
てくる。ふろあがり。手にはノート。

家計簿だ。えんぴつが挟んである。

テーブルに家計簿を広げて、濡れた

頭をタオルで拭く。風人、後ろから、
家計簿を覗き込む。

風人 きびしいなあ。

パセリ、くしゃみ。

パセリ くそう。

みずえ 風邪？

みずえ、お盆を持って、キッチンか
ら入ってくる。ウイスキーとグラス、
チーズやするめ、クラッカーなど、
軽いつまみがのっている。

パセリ 飲むか？

みずえ いい。

キキ 私、飲むわ。

キキが2階から下りてくる。

みずえ あ、グラス。

キキ いい。私、取ってくる。

キキ、キッチンへ。足がふらついている。

パセリ もう、酔ってるのか。

キキ フン、昼間っから、飲みっぱなし。

キキ、入ってきて、パセリの横に座る。
パセリを挟んで、もう片方の横には、
みずえが座って、レースあみをして
いる。

パセリ 店は？

キキ お休み。

パセリ、キキのグラスにウイスキーを入れてやる。

キキ ありがとう(と、飲む)。

パセリ 赤字かな、今月も。

みずえ (レースあみから目を上げない

で)部屋代、上げ

る？

キキ 簡単に言うけど、みずえが、一番困る

んじゃない。

みずえ アルバイトするわ。ベビーシッター

でも、老人介護

でも。私、得意よ。

パセリ そりゃ、もう。先生の世話だけでも、そうとうなもの

んだぜ。

みずえ ありがとう。

キキ アルバイトつていえば、この先の絵

描きの所で、モデ

ルしてらって聞いたけど。

みずえ ええ。

パセリ モデルか。おれもするかな。

みずえ そんなにきびしいの？

パセリ ま、なんとかなるよ。1人、増え
たし。

キキ でも、あの子、夏休みの間だけで
しよう。大学、東京

だって。

パセリ 考古学だとか、地学だとか言っ
たけど、石掘りで

もしにきたんだろ。

キキ そういえば多いよね。化石。ジュラ

紀だっけ、この辺

の地層。… 山で見つかるのは、石ばかりか。

みずえ …

キキ (みずえに) 1年半だね、あれから。

みずえ …

キキ 雪が溶けたら、すぐにでもみつかると思ってたんだだけ

どな。… 平気？ いつもあの山見てて。

パセリ 飲み過ぎだぞ。

キキ … ごめん。

みずえ いいの。私、もう寝るわ。今朝、早かったから(と、

立ち上がる) おやすみなさい(と、出ていく)

パセリ おやすみ。

キキ ヌードなのよ。

パセリ え。

キキ モデルの話。それも、浮世絵まがいのあぶな絵だって。

パセリ あぶら絵？

キキ ちがう。あぶな絵(と、ポーズをしてみせる)。

シグナル シエー(後ろで覗いて、喜んでいる)

パセリ (シグナルに) 寝ろ。… いいじゃないか。自由だ。

キキ やけになってなきやいいけど。

パセリ 人のことより、自分のこと、心配しろ。

キキ (ためいき) …

キキ、片隅にあるギターを持ってくる自分で弾こうとして、パセリに渡

す。

キキ 弾いて。

パセリ ん？

キキ あれ。

パセリ、キキの好きな曲を弾く。

キキ 手紙が来たんだ。

パセリ (手を止めて) どこから。

キキ わかんない。

パセリ あいつか。

キキ (うなづく) 中にちっぽけな瓶が入った。香水よ。

笑わせるじゃない。ハッピーイ バース
デイ キキ。

パセリ ちゃんと、覚えていてくれたんじ
や

ないか。

キキ ジャスマンだって。花言葉まで書いてあるの。何だと
思う？

パセリ 何だ。

キキ (笑って) …愛の通夜だつてさ。

パセリ 通夜？

キキ 忘れてくれたってことだと思う。…

逃げられるわけ、

ないのにさ。… 警察だつて、そんなに
甘くないよ。

パセリ、また、ギターを弾く。

パセリ (弾きながら) … 逃げられるか
もしれないぞ。

キキ (聞き取れない)

パセリ (今度はギターを止めて) 逃げきれぬかもしれない。

… 運がよけりやな。

キキ (立ち上がった) カンパ(と、テーブルの上に、封筒を置く。

キキ この間、競馬で、3万円も、儲かった。ちやった。

パセリ いいよ。いるだろ。

キキ いいの(と、出ていく)。

パセリ、ギターを弾き続ける。

シグナルは眠っている。

風人 部屋で眠っていた僕の耳に、叔父さんの弾くギターの音が、こもりうたのよう

聞こえていた。幾つもの夜を越えて、今も耳に聞こえてくるあの音は、なんだっただのだろう。学校にいくのをいやがった僕を、なにも言わず受け入れてくれた叔父さん。あの時、叔父さんは、今の僕と、同じ年だった。35か…。このままレールに乗ってつっぱしっていくのか…。それとも、また別の道が待っているのか…。どこかでよびりんが鳴っている。朝だ。その音に誘われて、僕はもう一度、目をさます。もう一度…

時の経過。

シグナル、上半身裸でテーブルの上に横たわっている。傷ついた両性具有の天使と言った感じである。

先生が、両手を上げて、テーブルの前に立っている。その横に、みずえ。

先生　メス！

みずえ　あら、ナイフとフォークしかない。

先生　か、かまわん（と、ナイフとフォークをみずえから

受け取る）。

どうやら、手術の時間のようだ。先生

生のお遊びに付き合うみずえも変

な人なのかもしれない。

先生、シグナルのおなかを、ステー

キでも切るように、切っていく。

先生　汗！

みずえ　はい（と、ハンカチで、先生の額の汗をふく）。

先生　ム！　ムムム　お横隔膜が、さ、裂けているぞ。

みずえ　なるほど。それで、あんな、バカッ調子で騒ぐの

ね。

先生　こ、こいつを、ぬいあわせよう。い、糸！

みずえ　あら、レース糸しかないわ。

先生　か、かまわん（と、レース糸を受け取る）。は、

針！

みずえ　あら、編み針しかない。

先生（受け取って）こ、これは、だめだ。
い、糸が、通
せない。

みずえ 平気よ。ほら、見て（と、編み針
でシグナルのお

なかをくすぐる）横隔膜のこっちとこっ
ちを、これでひっ

かけてかがつていくの。ついでに、花模
様なんて編みこん

じゃえばいいわ。この辺りに、方眼編で
お花畑でも作って

あげれば、こいつだって、上品におしゃ
べりできるかもし
れないわよ。

シグナル、くすぐったくて、ひくつ
いてる。

先生 そ、それは、いい考えだ。

みずえ じゃ、まず、お花を、トレースし
なくちゃ。

みずえ、編み針を、シグナルのおなかの
上で大きく動かす。シグナル、我慢でき
なくなつて、わらい出す。

シグナル カーカカカ、キキキキ、クク
クー、ケケケ、

コーコココー、ケツコケツコケツコ！！

この上なく下品な声を出して暴れまく
るが先生とみずえの冷たい眼差しに気

付いてだまる。

先生 お前、こ、ころを、い、れかえない
とキキに、く、

くわれてしまうぞ。

みずえ 共同生活なんだから、お隣の迷惑
になることしち

や、だめなのよ。キキさんは昼間寝てる
の。大声で、さ

わいじゃ、だめよ。

シグナル キキキキキ キキ！（と、ま

た大声で笑い出
す）。

みずえ （先生に）ね、なにか、こいつに
お話でも教えな

い？

先生 そ、それも、いいな。

みずえ むかし、むかし：

シグナル ムカムカヒカヒカ

みずえ あるとことに：

シグナル アララララ

みずえ おじいさんと

シグナル オジジジジ

みずえ おばあさんが

シグナル オババババ

みずえ すんでいました

シグナル スンダラダラダラ

みずえ （にらみつける）

シグナル （得意になつて）ムカムカヒカ

ヒカ アラララ

ラ オジジジジ オババババ スンダ

ラダラダラ （良

く出来たので、うれしくて笑う）カカカ

カカー

先生とみずえ、あわててシグナルの
口を抑える。

みずえ 口、ぬいつけちゃうぞ！ 口！
シグナル シーヌーツ（と、二人を撥ねつ
けて、また、大

声）、シヌツ！

先生 し、しぬというのはな、そ、そんな、
簡単な、も、ものじゃないんだ。

先生の講義がはじまった。

先生 せ、生物は、おびただしい数の、細
胞から出来てい

る。そ、それが、ぜ、ぜんぶしぬのが、
死だ。

（先生の口調は、いつになくなめらかにな
って、かつての授業を思い出したかのよう
になる）われわれの、体内

の大部分の細胞は、完全な、暗黒の中で、
生まれ、生き、死んでいく。おおおくの
細胞は、体の中にあって、けして日の光
を見ることはない。それは、沼の底だ。
体の中そのものが、沼なのだ。沼は、生
物のからだだ。細胞の、ひとつひとつに、
いのちのみなもとを運ぶ川がある。その
川がだんだん詰まって、細くなっていく。
ちようど、小川の流れに、岩や、木の枝
が落ち、それに、泥が溜まって、少しづ
つ、流れをさえぎっているのに似ている。
最後に残るのは、冷たく、滑らかな風景

だ。沼の表面のように。

…すべてが、機能することを、やめる。
しずかだ。誰も寄りつかない。…そ、
そのなかで、ひ、ひとりの男が、し、死
んでいる…

先生、全精力を遣い果たしたように、
しゃべり終わる。低く、荒い息が、
徐々に静まっていく。話の途中で、
フートが入ってくる。みずえ、フー
トの頭を抱いて、話を聞いている。
細胞のひとつひとつをなぞるよう
に、フートを愛撫している。先生は
影になり、フートとみずえの二人を
あかりが映し出している。

先生 わ、私の、講義は、ど、どうだった
かな。

みずえ とてもよかったわ。

先生 ま、また、もと通りに、なれるかな。

みずえ だいじようぶ。きつと、直るわ。

先生 こ、ことばは、よく、なっても、こ、
ころが、だめ
だ。

みずえ あせることはないわ。

先生 そうだな… みずえさん…が、いて
くれると、げ、

元気になる。

みずえ よかった。

先生 ず、ずつと、こ、ここに、いてくれ
ると、い、いい
がな。

みずえ いるわよ。

先生 ま、また、いっしょに、シグナルを、
つ、つかって、

けいこ、しょう。

みずえ OK。

シグナル、怒って騒ぎだす。

シグナル キーキキキキキー！

キキ うるさーい（と、入ってくる）。そ

の、火災報知器

みたいなやつ、どうにかしてよ。

みずえ （シグナルに）疲れたでしょ。冷

たいさとう水、

あげるわ（と、キッチンへ）いらっしや
い。

シグナル、みずえもあまり気に入っ
てないが、キキは、もっと苦手なの
で、しかたなくキッチンについてい
く。

フート ぼく、ソーダ水！

みずえ（声）いいわよ。

先生 わ、わたしは、みずえさんの、こ、
紅茶が、飲みた

いな。

みずえ （キッチンから）待ってて。

先生、テーブルの上を、フォークと
ナイフで、ステーキを切るように、
切っている。

キキ 今日のステーキは、よっぽど固いみたいね。歯がた

ってないじゃないの。それとも、フォークとナイフが、

錆び付いてるのかしら？

先生 (切ってる)

キキ (小声で) 今日、お店、来る？

先生 (うなづく)

キキ いいこ、紹介してあげる。

先生 (うなづく)

キキ 先生、みずえみたいなのが、いいんで

しよ。白くて、やわらかい子。

先生 (うなづく)

キキ いっぱい、さわらせてくれるわよ。

先生 (うなづく)

みずえ (紅茶を持って出てきて) はい。

先生 あ、ありがとう(と、嬉しそうに飲む)。

みずえ (フートの前にソーダ水を置く)

フート ありがとう！(ソーダ水の入ったコップ)

プに、ほっぺたをおしあてて、ソーダの

音を聞いている) シュワ シュワ シュワ

ワ シュワ シュワ シュワ

∴ (次に鼻を突っ込んで) ぷふぁ(むせかえる)。

みずえ (キキに) でかけるの？

キキ まだ。

みずえ 今日は、何歌うの？

キキ 一緒よ。いつもと。ムーンリバーとか、テネシーワ

ルツとか、スタンダードなやつ。

みずえ 歌謡曲も、歌う？

キキ うたうわよ。東京ブルースとかブル
ーライト横浜と
か。

フート オバQの歌は？

キキ 歌わない。

みずえ たまには、ローリングストーンズ
なんて、やりた
くない？

キキ やりたい やりたい。

先生 キ、キキさんのこ、声は、と、とて
もいい、声だ。

テ、テツシュ、ペーパーの上を、や、や
わらかな、風が

ふ、ふいているような。

キキ … ありがとう。

宅配屋（声） （玄関から）おとどけもの
でえーす。

キキ はーい。（二人に）あ、私（と、玄
関に飛んで出て
いく）。

宅配屋 まいどー。

異様に明るい宅配屋が入ってくる。
サングラスに帽子。大きな荷物を持
っている。

キキ こっちよ。上。

宅配屋、2階へ。キキも後からつい
ていく。フート、宅配屋を覗き込ん
で見送る。

フート （宅配屋に）ちわ。

宅配屋 ちわ。

キキ (二人に) じゃあ、ね。

みずえ … キキさんは、いいな。自慢で
きるものがあつ
て。

先生 みずえさんにも、ある。

みずえ ないわよ。

先生 や、やさしいこ、こころだ。

シグナル キーキキキキー

後ろでシグナルが、馬鹿にしたように、
笑う。

みずえ さ、お夕飯のしたく、しなくちや
(と、キツチン

に消える。消える時に、ばか笑いしてい
るシグナルの頭
を小突く)。

シグナル アタ!

先生 (フートに) こ、この間のやつは、
よ、読んだか?

フート あ、うん!

先生 ど、どうだった。

フート おもしろかったさ。あれ、先生が
書いたんだろ。

先生 が、外国のお話だ。私が、や、訳し
たのさ。

フート やく?

先生 ま、書いたって、ことだ。

草子 ただいま。

フート あ、おかえり! ねえ、草子さん、
聞いてよ。

草子 なに?

フート 先生の書いたお話だよ。

草子　へえ。

フート　ある所に、ジェントルマンのモルモットと、毛の

短いモルモットがいたんだ。

草子　うん。

先生　マ、マーマレード村だ。

フート　うん？

先生　ある所じゃない。

フート　そうだ、マーマレード村だったね。

そこに、旅回りのモノ売りがやってくるんだ。そいつはね、けはえ葉を売ってるんだよ。で、毛の短いモルモットが、その実験台にさせられるんだ。

草子　で、毛がのびたの？

フート　もう、そりゃ、長くなって、「今度は、ヘアピン

が必要でしょ」って、言われちゃうんだよ。

草子　変わったお話ね。

フート　先生が書いたんだよ。サーカス団だって、来るん

だ。旅回りのサーカスには、長い鼻をつけた、こぶたがいるんだ。

草子　どうして。

フート　象の代わりだよ。だって、象は大きすぎて、旅回

りには向かないからさ。

草子　なるほど。

みずえ　（入ってきて）テーブルを拭く。

フート　先生みたいな、すっごーい、お金持ちのおじいさ

んが出てきて、サーカスを丸ごと買い取っちゃうんだ。

草子　先生って、お金持ちなの？

先生 か、金なんか、ぎ、銀行にほおりこんでおくだけで、

か、勝手に、増えていく。と、土地も、遊ばせておくだ

けだ。ほっておいても、ふ、増えていくからな。

フート 土地が、何して遊ぶの？

草子 (みずえに) 本当なの？

みずえ まさか(と、首をふる)。

草子 そうよね。お金があつたら、こんなところにいやし

ないわよね。

先生 こ、こにいれば、安心だ。だ、誰も、きやしない。

し、静かだ。金めあてのやつらは、ご、ごめんだ。

みずえ フート、身長、計ってあげようか。

フート いいよ。

みずえ ほら、こつちにきて(と、かべぎわにフートを立

たせる)。草子さん、何か、書くもの、持ってない。

草子 ボールペンでいい？(と、バックから出して渡す)。

みずえ ありがと(と、壁に印をつける)。

フート 叔父さんにしかられちゃうよ。

みずえ 大丈夫よ。たのしみね。来年は、もっと大きくな

ってるわよ。∴ 草子さん、夕御飯は？

草子 まだだけど。

みずえ 一緒に食べない？

草子 いいの？

みずえ いいのよ。先生とふたりじゃ、あまつちやうもの。

フート 僕も！

みずえ フートはパセリさんと一緒でしょ。

フート おいしくないもん。叔父さんの料理。

みずえ じゃ、いいわ。一緒に食べよう。私から言つとい

てあげる。そのかわり、支度、手伝うのよ。

フート うん！

先生 わ、私は、散歩してこよう。

みずえ すぐに夕御飯よ。

先生 す、すぐに帰る（と、出ていく）。

みずえ いつてらっしゃい。…さ、したく、したく（と、

キッチンへ）。

草子 私も手伝うわ。

フート 僕も。

みんながキッチンに消えたあと、風

人、壁の印をなつかしそうに撫でる。

時間の経過。

6 1974年・夏 趣味の問題

パセリとフート、二人で並んでさと

いもの皮を剥いている。かごの中の

さといもを剥いては、水を張ったボ

ールの中に入れていく。

フート かいー（剥いている指が痒い）。

パセリ 男はなあ、料理くらい出来なくちゃだめだぞ。

フート そんなこと言って、叔父さん、やんの遅いよ。

(小声で) へただし。

パセリ ゆっくりでいいんだ。男の料理は趣味だからな。

生活なんて趣味でいいんだ。趣味で飯食って、趣味で仕事

して、趣味で女抱いて、趣味で寝るんだ。

朝から晩まで趣味だ。

味だ。それが粹な生き方ってもんだ。

フート フフ(鼻で笑ってる)。

パセリ 何笑ってるんだ。

フート しゅみだ。

パセリ …

フート … かいいー。

パセリ もういい(かごとボールをキッチンへ持っていく)。

フート それ、どうすんの？

パセリ にもものにする。

フート (手を洋服の胸で拭きながら) 僕、ハンバーグが

いい。

パセリ(声) きのう、食った。

フート なら、カレー。

パセリ(声) おとつい、食った。

フート なら、オムレツ。

パセリ(声) 今朝、食った。

フート ところがし、嫌いだー。… あつつうー。クー

ラー、入れている？

パセリ (出てきて) だめだ。

フート もう6時だよ。

パセリ なあ、フート。どうして、そう、

だらだらだらだ

らするんだ。だらだらくねくね… しゃつきーとしろ！

フート シャキー！ … よけ、あつい。

パセリ 電話、あつたぜ。ねえさんから。

フート …

パセリ 学校、どうするんだってき。9月から行くか？

フート 行かない。

パセリ 試しに、趣味で、行ってみろ。

フート 趣味じゃないもん。

パセリ 家、帰ってこいってき。

フート 帰らない。

パセリ かわってんな、お前。

フート 叔父さんに、似たんだ。

パセリ 似てない。

フート … 草子さん、今、おふろ入ってるんだよ。

パセリ それが、どうした。

フート 僕、さつき、草子さんの部屋に、

プレゼント、置

いてきた。

パセリ 人の部屋に、勝手に入るなって、言ってるだろ。

フート ドア開いてたもん。

パセリ 勝手に入るやつはドロボーだ。

フート 何も取ってないよ。置いてきただけだよ。ものあ

げるのも、ドロボーなの？

パセリ 何、置いてきたんだ。

フート フフ、すっごいやつだよ。

パセリ なんか、いやな予感がするな。

フート ねえ、草子さんの部屋に、前いた人ってき、久野

さんって、言うの？

パセリ そうだよ。

フート ドアの名札、外していいかって、草子さんが。

パセリ かまわないさ。

フート 久野さんって、山へ行ったきりなんだろ。

パセリ …

フート もう、死んじゃってるんだろ。

パセリ (口に線を引き、チャックの動作をする)。

フート どうして？

パセリ みずえの前で言うな。

フート みずえさん、久野さんと、結婚したかったんだってね。

パセリ 誰に聞いた？

フート キキさん。

パセリ 結婚するはずだったんだ。山から帰ってきたら。

フート 山が趣味で、結婚が趣味で、死ぬのが趣味だったんだ。

パセリ フート！(と、チャックの動作)

2階から、草子のすごい悲鳴が聞こえてくる。

パセリ な、なんなんだ…

フート …草子さんだ。

パセリ どうした？

フート …やっぱり趣味じゃなかったんだ。

パセリ 何やったんだ！

フート かえる…こんな(でっかいの)。
パセリ 取ってこい！ 早く！
フート だって…

また、悲鳴。

パセリ … もうー ったくう！(と、飛んでいく)。

みずえが帰ってくる。

みずえ ただいま。

しよげているフートを見て、

みずえ どうしたの？

フート みずえさんは、好きだろ。

みずえ なにが。

フート かえる。

みずえ 好きよ。

フート 嫌いな人もいるんだね。

みずえ そりゃ、ね。かえるが、どうかしたの？

フート 草子さんにあげたの。気に入ると思ったんだ。だ

って、むかでの化石とか、捜してるくせにさ。

みずえ …

フート 化石は死んでるから、いいの？

みずえ さあ。

フート じゃ、ムーニイさんのことも嫌いだね、きつと。

みずえ ムーニイさん？

フート … 僕の、友だちだよ。

みずえ …

フート … 友だちだけど、本当は、まだ、一度も会った

ことないんだ。変？

みずえ いいえ。

フート … 会えると思う？

みずえ ええ。そのうちきつと会えるわ。

待ってれば、ね。

フート うん。

みずえがフートの肩を抱く。夕ぐれ。

物悲しい音楽が、聞こえてくる。風

人がふたりを遠く見つめている。

風人 待ってれば… みずえはそう言った

。遠くから見ると、たいていのものは美しく見える。それぞれの心に、どんな思いがあふれてようと、表面上は、あたりさわりのない会話が交わされ、誰もその底の闇を覗こうとはしない。僕の闇のなかには、小さな箱があった。からっぽの、小さな箱だった。あの時、僕はそのなかに、僕だけのたからものいれようと思っていた。

みずえとフート、出ていく。

風人 ひとつの物語がドアを開けて去り、また別の物語が、

ドアを開けて入ってくる。気がつけば、部屋の中には、

もうひとつの物語が、腰を下ろしている。

先生が、おおきなやかんを持って、入ってくる。やかんを、テーブルの

上に置き、椅子に腰をかける。そして、やかんを見ながら、話しかける。

先生 お前もだいぶ、く、草臥れてきたな。も、もう、そ

ろそろ、ひ、引け時だぞ。第一、き、切れがよくない。

ふ、ふっとうした時のお、音も、悪くなってきた。悲し

いが(と、していたネクタイを外して、やかんの口にか

ける)、終わりだ。

やかんに話しかけながら、自分に、言い聞かせているのかもしれない。

先生は、どんな時でも、起きている時は、英国調に、ネクタイを外したことがなかった。その先生が初めてネクタイを外したのだ。うなだれた、さみしそうな姿。風人が、じっと見守っている。

7 1974年・夏 屋根裏の散歩者

暗い中。

草子(声) もう、しない？

フート(声) うん。約束する。

草子(声) 本当に？

フート(声) うん。ぜーったい！

明かり、入る。草子とフート。

草子 じゃ、借りてきてあげる。

フート ほんと？

草子 でも、1日だけよ。明日はお休みだからいいけど、

明後日の朝にはかえさなくちゃいけないから。

フート 大丈夫だよ。一日で読んじやうから。忘れないで

よ(と、出ていく)。

キキ (入れ代わりに入ってきたながら) なあに(と、草子に)。

草子 読みたい本があるんですって。フートって、本が好

きみたいね。

キキ 先生の影響でしょ。本屋さんで、バイトしてるの？

草子 ええ。夜、暇だから。… お茶、入れようか。

キキ いいわね。

草子、キッチンへ。キキ、窓の外や玄関を気にしている。

草子 (お茶を入れて、持ってきたながら) 天井で音がする

の。ねずみかしら？

キキ (笑って) それはね、のぞきよ。

草子 え？

キキ 先生の趣味なの。お散歩してるの。屋根裏。

草子 …

キキ 天井の羽目板を外して見てるのよ。私たちの部屋。

草子 いやだわ。

キキ いやだったたら、天井にポスターでも
はっちやえばい

いわ。私はそうしてる。みずえとは違う
もん。

草子 ？

キキ あの子、すごいよ。先生が見てる
の知ってて、平

気なの。平気で、着替えたりしてるの。

草子 …

キキ 見かけによらないのよ。

草子 うそ。

キキ ほんと。久野さんがいた頃からよ。
久野さん、ほら、

前にあなたの部屋にいた…

草子 あの、山へいったままっていう？

キキ そう。久野さん、部屋に呼んで、ベ
ッドで、毎晩よ。

草子 …

キキ それを上から覗いてるの、先生が。
あの人たち、わ

かってってね、やってるの、毎晩。

草子 …

キキ それ見て先生も屋根裏で楽しんでるの。
草子 …

キキ でも、変よね。

草子 何が。

キキ だって、あんな山で、遭難するなん
てき。遺体も、

見つかってないのよ。…もしかしたら、
山なんて行っ

てないのかも…

草子 …え？

キキ …あなた、石、捜してるんですっ
て？

草子 … ええ、まあ…

キキ 土堀りって、おもしろい？

草子 … 岩のなかにね、混じってること
があるの。ほん

の少しの確率なんだけど。動物の骨だっ
たり、恐竜のあ

ごだったり、亀の甲羅だったり、虫だっ
たり、はっぱだ

ったり… 雨の降った次の日なんかには、
化石を含んだ石

が、あちこちに落ちていて、それを集め
て取り出すのよ。

キキ どうやって取り出すの？

草子 いろんな方法があるわよ。でも、一
番確実なのはね、

待つことなの。

キキ 待つ？

草子 すごく、デリケートなの。下手にた
たき割ったりし

ちゃ、もともともなくなっちゃうわ。…

欲しければ、

時間をかけて、待つよ。岩を外気にさ
らして、風化し

てやわらかくなっていくのを、ただ待つ
の。岩の固まり

の中から、ちいぢやなちいぢやな、魚の
歯を見つけた人

がいたわ。すごい発見よ。そんなものを
取り出そうと思

ったらね、それこそ、じつとがまんの子
よ。

キキ いらいらしない？

草子 しないわ。ちゃんと中に、見えてる
んだもの。

キキ よけい辛いと思うな。手の届く所にあるのに、手を

出しちゃいけないなんてき。

草子 … パセリさんって、どうして独身なの？

キキ 理由なんて、いる？

草子 ただ、どうしてかなって。

キキ 結構、かっこいいのよね。

草子 もてるの？

キキ どうだか。そんな話は全然聞かないけど。もう女に

は懲りたんじゃないの。

草子 懲りたって…

キキ あの人、前は、中学校の先生だったのよね。でも、

辞めさせられちゃったのよ。なんでだと思おう？ 密告よ。

生徒の母親と出来ちゃって、それを、誰かに、密告されち

やったんですって。学校に、匿名の手紙があったらしいわ

よ。陰険じゃない。どこの世界にも、いやなやつっている

もんよね。

草子 …

キキ どうかした？

草子 …

キキ おっそいなあ。

宅配屋 (玄関から声) お届けものーす！

キキ あ、来た。(草子に)私。はーい(と、飛んでき

く)。

宅配屋 まいどー。

前と同じ、異様に明るい宅配屋が入
ってくる。サングラスに帽子。大き
な荷物。

キキ こっちよ、上。

宅配屋、2階へ。キキもついていく。
途中、入ってきたパセリとすれ違う。
宅配屋、ことさら荷物で顔を隠す。

パセリ ?(と、宅配屋とキキを見送って、
草子に) アル

バイト、してるんだって。

草子 ええ。駅前の古本屋さん。

パセリ 先生、よく、行ってるだろ。

草子 お得意さんみたい。

パセリ もうすぐ、学校が始まるな。

草子 私も、中退しちやおうかな。

パセリ やめとけ。

草子 (いたずらっぽく) 学校を? 中退
を

パセリ (笑って) さあ、な。

草子 ∴ 先生∴

パセリ (植原先生のことだと思って、あ
たりを見回す

が)?

草子 わからない?

パセリ ∴

草子 8年ぶり(ほっぺたを膨らまして、

パセリを下から

見上げる)∴

パセリ ∴ 石田?

草子 私、変わった?

パセリ え∴ あ∴ うん∴ まあ∴

草子 がんばって、ダイエットしたからね。
パセリ …

草子 … 名字、嘘ついてて、ごめんなさい。決心して、
ここまで来たんだけど、いざ来てみると、
なんか、私…

パセリ …

草子 まさか、来るとは思わなかった？

パセリ ああ。

草子 … 母さんのこと…

パセリ … 悪かった。

草子 ううん。… 誤るのは… 私のほう。

パセリ … どうして。

草子 … 私、すぐく、汚いこと、した。

パセリ …

草子 … 密告したの、… 校長に、手紙
書いたの、私な
の。

パセリ … そうか。

草子 …

パセリ 悩んだんだろうな。

草子 ずっと、気になってって… だって、
そのせいで、

先生、学校、辞めちゃったんでしょ。

パセリ いや、そうじゃないよ。

草子 …

パセリ もちろん、それも、あったけどね、
それだけじゃ

ないんだ。親父がくたばっちゃって、こ
の下宿屋をやる

ものがなくなってたんだよ。あねきは、

あ、フートの母

親だけど、もう、結婚してたし、田舎帰
って、のんびり、

暮らしてみるのも、いいかなって思っ
てさ。

草子　：

パセリ　結構、気に入ってるよ。

草子　学校の先生より？

パセリ　ああ。安心したか？

草子　：　うん。

パセリと草子、一緒にコップを片づ
ける。

パセリ　（うなずいて、コップを持って、
キッチンに入る）。

草子　（パセリが消えたあとで）先生、母
さんのこと、愛
してた？

パセリ（声）　なんだ？　なんか言ったか？

草子　ううん、なんでもない。

草子もキッチンへ。

8 1974年・夏 一般常識

夜更け。キッチンから、先生とフー
トが抜き足差し足忍び足で出てく
る。二人、黒い上下。シグナル、寝
ている。

フート　せんせい。

先生　シー。

フート　（小声で）せんせい。

先生　な、なんだ。

フート　呼んでみただけ。

先生　：　じ、じゅんび。

フート いいよ。

先生 い、言ってみろ。

フート 一つ、足音をたてるな。二つ、声を出すな。

三つ、だらだらするな。

先生 も、もったか。

フート もったよ。

先生 い、言ってみろ。

フート 一つ、軍手。二つ、水。三つ、懐

中電灯。

先生 い、いいか、だ、誰にも、な、ない
しよだ。

フート うん。

先生 い、いくぞ。

二人、そーっと、階段に向かって歩
き出す。

フート せんせい。

先生 な、なんだ。

フート 覗き見は、泥棒じゃないよね。

先生 い、い、いっぱん常識だ。

フート うん。

先生 に、人間、か、観察ともいう。

フート うん。

先生 いくぞ。

抜き足差し足… 暗転。

9 1974年・夏 しあわせな家族

パセリ、キキ、みずえ、草子が、喪
服を着てテーブルの前に、シグナル
はシグナルの場所に、座っている。
シグナルは悲しそうに横を向いて、

白木の箱を抱えている。シグナルは、
ずっと、そのポーズを崩さない。

キキ 窓の向こうから見たら、私達って、
どんな風に見える
るかしら。

草子 3人姉妹とその父親。

パセリ 父親はないだろ。

みずえ しあわせな家族って感じじゃな
い。

草子 しあわせな家族が、喪服着てる？

みずえ しあわせな家族が、悲しみに沈ん
でいる図よ。

キキ 家族の一員であるやさしいおじい
ちゃんが死んじや
って。

間

草子 フートは？

パセリ 部屋で、寝てるよ。

キキ お通夜にも、お葬式にも、出てこな
かったわよね。

草子 ショックだったでしょうね。

パセリ そりゃあ、いろんな意味で、ショ
ックだっただろ。

みずえ なんてったって、そばにいたんだ
から。

草子 心臓マヒだったんでしょ。

パセリ 医者は、そう言ってたよ。

キキ 屋根裏でね。

草子 キキさんの部屋の上よ。

キキ みずえじゃなくてね。

4人、顔を見合わせて、それぞれ考える。

草子 そういえば、フットが変なことを言
ってたわよね。

キキ 「久野が…」って、あれでしょ。

草子 先生が倒れる前に、そう言ったって。

久野って、久野さんのことでしょ。みず

えさんの…

パセリ きつと、久野を見たんだよ。先生
は。キキの部屋
で。

キキ まさか、久野さんなんて、来るはず
ないじゃない。

パセリ 久野じゃなければ、誰か他の男だ。

草子 誰かを、久野さんと、間違えたって
こと？

キキ …

パセリ おれじゃないよ。

草子 じゃあ、誰？（と、キキを見る）

パセリ （キキに）あいつだろ。

キキ …

パセリ 部屋で、あいつに、会ってたんだ
ろ。

草子 誰、あいつって。

パセリ 運送屋とはな。考えたな。

草子 あ。

キキ なんだ、ばれちゃってたのか。

パセリ 変な小細工するからだよ。

キキ … 行っちゃったわ。もう。

みずえ けいさつ、大丈夫だったの？

キキ ベイルートへ行くんだって。

みずえ パスポートは？

キキ 仲間が用意してくれたって。

パセリ 追い掛けるのか。

キキ わからない。
みずえ でも、いいわよ。
キキ どうして？
みずえ 生きてるんだもの。

間

みずえ みつかったのよ。
キキ え。
みずえ 久野さん。
草子 いつ？
みずえ おとつい。
キキ (パセリに) 本当？
パセリ ああ。警察から連絡が入ったんだ。
キキ 知らなかった…
みずえ みんなには、黙ってたの。先生の
事で、大変だっ
たし。

草子 こんなとこにいていいの？
みずえ どうして？
草子 だって、久野さんのお葬式とか…
みずえ お葬式は、ここではしないの。ご
両親が来て、連
れて帰ったわ。
草子 行かないの？
みずえ … ええ。
キキ … 山の、どこで、見つかったの？
みずえ 山じゃ、なかったの。
草子 山じゃなかった？
キキ どういうこと？
パセリ 沼で、死んでたんだよ。
草子 沼…

間

キキ … じゃ、やっぱり、先生が？…

パセリ 先生？ どういうことだ。

キキ 私、ずっと、気になってたことがあって… でも、

みんなが久野さんは山で遭難したって

言うから…

パセリ 何だよ。

キキ … 久野さんが、行方不明になった

あの日ね… 私、

先生と久野さんが、二人で歩いているのを見たのよ。変

だなって思ったの。だって、久野さん、

山登りの恰好し

ていたのに、二人が向かっていたのは、

まったく別の方

角だったもの。

草子 沼の、ほうだったの？

キキ … 沼よ。沼以外は考えられないわ。

だって、あっ

ちには、他に何も無いもの。

パセリ きつと、二人でシグナルを捜しに

行ったんだ。あ

の、2、3日前からシグナルが、行方

不明になってた

から。

草子 でも、どうして、わざわざ沼へ？

パセリ 前の日に、沼の方でシグナルを見

たって人がいて、

先生に捜しに行こうって言われてたん

だけど、忙しくて

行けなかったんだ。

草子 久野さん、シグナルをつかまえよう

として、沼に落

ちたのかしら。

キキ だったら、どうして、先生が助けを呼ばなかったの

よ。

みずえ ちがうわ。

草子 … ちがうって？

みずえ シグナルは戻ってたわ。あの朝、ここに。私、先

生の部屋で、シグナルが鳴いていたのを、聞いたもの。

パセリ シグナルを捜すんじゃないければ、なんのために。

キキ 沼に、久野さんを突き落とすためじやなかったのかな。

間

草子 まさか。

キキ 先生には、みずえが必要だったのよ。

みずえが久野

さんと結婚して、ここを出っ行ってしま
うのが耐えられ

なかったのよ。

パセリ … 証拠は、ないよ。

間

キキ そうね。証拠はないわ。あの日、先生と久野さんが

沼に行った。久野さんは、それ以降、行
方不明。みんな

は、久野さんが山へ行ったとばかり思っ
ていたから、山

で遭難したと信じていた。でも、久野さ

んは、沼で亡く

なっていた。… それだけのことよ。…

先生、驚いた

でしょうね。みずえの部屋を覗いたら、
殺したはずの、

久野さんがいたんだから。

草子 あら、キキさんの部屋でしょ？

キキ だから、みずえの部屋と、間違えて
覗いたのよ。

草子 でも、キキさん、部屋の天井には、
覗けないように、

ポスターが張ってあるって …

キキ 外れてたの。

みずえ 先生は、見たのね。キキさんと、
キキさんの彼が

愛し合っていたところを。

草子 それを、みずえさんと久野さんだと
思ったのか。

フート、入ってくる。さっきまでの

話を、入口で聞いていたようだ。

フート せ、せんせいは、い、言ってたよ。

く、くのだって。あ、あな、のぞいてい、

言ってた。く、くのだ、う、う、うそだ
って。し、し、しぬまえに、い、言っ

た。

草子 フート…

パセリ こい。

パセリ、フートを抱き締める。

キキ ショックで、先生のが、うつっちゃ
ったんだわ。

草子 可愛そう。

パセリ 大丈夫だ。すぐに直る。

フート こ、こわかったよ。ぼ、ぼく、こ、こ、こわかったよ。

たよ。

キキ そうよねえ。あんなとこ、見ちゃったんですものねえ。

草子 可愛そう。

みずえ こんな小さな子供を、覗きの共犯者にしようなんて。

キキ 最後まで、因業なジジイよね。

間

みずえ 死ぬ前に、いいわけぐらい、してほしかったわ。

キキ おまけに、こんな、晴れた日に、行っちゃうなんて。

みずえ あのけむり、見た？

キキ まーすぐ、すいすい、気持ちよさそうに上がって

たわよ。

草子 天国に、一番のりしようって、気よ。

キキ ねえ、あの、レース。

みずえ うん？

キキ お嫁入りの道具だったんでしょ。

みずえ まあね。編み上げるのに、2年かかったわ。

パセリ ベッドカバーだよな。

キキ あんな、ジジイのかんおけを包んで、燃やしちゃう

なんてさ。

草子 もつたいない。

みずえ … いいの。すつきりしたわ。

キキ すつきり、か。

みずえ ええ、すつきり。

間

草子 … 私、なんか、おなかすいちやっ
たな。

キキ 私も。

草子 このところ、なんにも、食べてなか
ったような気が

する。

パセリ 気にせずに、食べ、食べ。

キキ ねえ、今夜は、太るもの、いっぱい
食べようよ。

みずえ 無礼講ね。

草子 シグナルに、わるくない？

パセリ いいだろう。

4人、シグナルを見る。シグナル、
白木の箱を抱いている。

みずえ いじらしい。

キキ フート。

草子 何食べたい？

フート … い、いらぬ。

パセリ 家に帰るんだ。母親が迎えにくる。

みずえ ここは、お子様むきじや、なかつ
たってわけね。

草子 可愛そう。

キキ (パセリに) ねえ、弾いて。

4人、それぞれの思いを内に秘めた
まま、窓の外を見ている。フートに

は、先生が亡くなっても平気なように見える4人の気持ちに分らない。

草子 誰か、窓のむこうから見てるかしら。
みずえ … 虹よ。ほら。

パセリ、ギターを弾き始める。女3人は、陽気にさえ見える。白木の箱を抱いているシグナル、沈んでいるフートとは対照的だ。パセリは、もくもくとギターを弾いている。

キキ 私、アメリカに行くわ。
みずえ ベイルートじゃないの？
キキ そんなところ行くもんですか。グリニツジ・ヴェレッツ

ジで学生生活やり直すのよ。
草子 いいわね。

キキ みずえはどうするの？
みずえ 私も、学校、行くわ。

キキ 学校？
みずえ 私、看護婦に向いてるみたい。

草子 その点は、先生の御墨付よ。
みずえ さしあたって、お金作らなくちゃ。

草子 先生、残してくれなかったの？
みずえ そんなもの、ゼロよ。

キキ うそつきジジイ。ね、お店、紹介しようか。

みずえ 私、キキさんみたいに歌えないわよ。
キキ みずえなら、にっこり、笑ってるだけで、OKよ。

みずえ 本当？

草子 あ、私も、だめ？

みずえ 卒業したいんですよ。

草子 まあね。

キキ みつかった？ 宝物。

草子 みつかったわよ、すごいのが。

みづえ 何？

草子 恐竜の目玉。

キキ 本当？

草子 うそ。

パセリは、もくもくとギターを弾き、
女3人は、それにあわせて、体を揺
らせている。3人とも何かを吹っ切
ったように明るい。

シグナルは、あいかわらず白木の箱
を抱いたまま、フートは誰にも相手
にされず、離れた所に、ぽつんと座
っている。風人、フートをじっとみ
ている。

風人 先生が亡くなったというのに、なぜ、
みんな、あん

なに明るいのだろう。その明るい態度が、
僕にはわから
なかった。

僕は、その時、誰にも言えない秘密を
抱えていた。あの時、僕の腕を、ちぎれ
るほどひっぱっていた、先生の顔。僕は
怖かった。死んでいく先生の顔が怖かつ
た。だから僕は、思わず先生を突き放し
た。そのせいで、先生は倒れて… 僕が
先生を殺したのだ…

怖かったと言った僕の言葉を、みんな
は誤解していた。僕が怖かったのは、キ
キのいったような意味なんかじゃなか
った。

だが、しかし、それは、本当に誤解だったのだろうか。みんなは、わかっていて、それをすり替えたのかもしれない。僕の罪の意識を少しでも軽くしてやるうと思っていたのかもしれない。あの明るい態度も、今にして思えば、それが4人流のやり方だったのかもしれない。だが、その時は：

風人、フートの肩に手を置く。

風人 僕は、その中で、たったひとりのよ
うな、気がして
いた。

暗転。

1999年・冬 エピローグ

暗い中。パセリの手紙を読んでいる
風人。

パセリ（声） 君のことが気になっていた
が、姉さんから
ちゃんと学校に行っていると聞いて、も
う、気にすること
はやめた。君も自分の道を歩きはじめた
んだ。

風人、僕が死んだあと、ここは君に譲
るよ。売るなり、
壊すなり、好きなようにしていい。

さあ、僕の手紙
は、これで終わりだ。生きている間に、
もう一度会え

るといいがな。じゃ。フート、元気で。

手紙の途中から明るくなり、手紙を
読んでいる風人

がいる。シグナルは、いつもと同じ
自分の場所にい

て、風人を見ている。ただし、白木
の箱は、抱い

ていない。風人、手紙を読み終える。

シグナル (口笛を吹く)。

風人 シグナル：

シグナル ひさしぶりだな。

風人 おまえ、ずっと、生きてたのか？

シグナル (笑って) あいかわらずばかだ
なあ。俺は鳥だ

ぜ。鳥がそんな長生きなわけないだろ。

風人 ぜんぜん、変わってないからさ。

シグナル お前はひどく、かわったなあ。

風人 人間は変わるよ。25年だぜ。

シグナル 鳥も変わるさ。教えてやろうか。
俺は風に生まれ変わったんだ。おまえが
なりたかった風

だ。

風人 そうか。

シグナル ああ、どこへでも行けるし、何
にでもなれる。

風人 いいな。

シグナル 風だからね。いつもは、誰にも
姿を見せないん

だ。だけど、今日は、お前が来たからさ。

久し振りに昔

の俺に戻って見たんだよ。

風人 そうか… … ずっと、ここにいる

のか？ その、

風になったあともさ。

シグナル ああ。この家と、この上の空と、このあたりに、

ずっとさ。じいさんが死んで、下宿人がいなくなつて、

パセリが死んだ。もう、誰もいなくなつた。

風人 うん。

シグナル いろいろあつたよ。

風人 いろいろか？

シグナル おまえは、どうしてた？

風人 普通の男になつたよ。大学を出て、就職をした。何

度か仕事を変えたけど、未だにしっくりこない。

シグナル 結婚は？

風人 まだだよ。中途半端なんだ。何もかもさ。チュウタ

イストにさえなれないんだ。

シグナル … この家は、どうするつもりなんだ？ 貰つ

たんだろ、パセリから。

風人 … どうするか。

シグナル 売るか？

風人 … そうだな。

シグナル パセリは、ここが好きだったよ。

何年、旅に出たつて、結局、ここに戻つてきた。お前は、あれから、一度も来な

かったな。… じいさんのこと、まだ、気にしてるのか。

風人 …

シグナル じいさんが死んだのは、お前のせいじゃない。

じいさんは、自分で選んだんだよ、死ぬことをね。

風人 自分で？

シグナル ああ。

風人 先生は、お前に何か言ってたのか？

シグナル さあな。だけど、俺にはわかるんだ。じいさん

と俺は、友達だったからな。

風人 俺は逃げ出したんだ、あの時。自分からも、みんな

からも。誰にもわかってもらえないと思ってた。

シグナル 子どもだったからだよ。子どもは孤独だ。それ

が、子どもの存在証明だ。

風人 お前、てつがくだな。

シグナル 風は、てつがくだよ。

風人 いつも、何してるんだ。

シグナル 飛んでるよ、この上を。それから近くに

いさんの墓を見に行くんだ。墓の上を飛んで、沼の上を

飛んで、この家に戻ってくるんだ。上からみるとさ、み

んな、ちっぽけで頼り無いんだ。くそつ、俺が守ってや

らなきやって、思うんだ。この家の前にある、あの、で

つかいにれの木だつてさ、まるでパセリだよ。そうさ、

パセリの木だよ。…でも、パセリも死んだ。俺の役も、

もう終わりだ。

風人 俺が、いるよ。

シグナル そうだったな。

風人 … シグナル…

シグナル なんだい。

風人 ムーニイさんのこと、覚えてるか？

シグナル ああ覚えてるよ。お前の友達だ。

風人 いまでも、あの沼で、ひとりで、がんばってるんだ

ろうか？

シグナル ああ、がんばってるよ。ひとりでがんばってる。

風人 お前、ムーニイさんに会えたのか？

シグナル もちろんあえたよ。ああ、そうだ！ ムーニイ

さんから、お前にとって、預かってたものがあるんだ。

(と、ポケットから何かを取り出して、風人に渡す)。

風人 (受け取って)なんだ(と、明かりに透かしてみせる)。

シグナル 庭に植えろってさ。

風人 種か？

シグナル ああ。

風人 何の種だ。

シグナル さあな。芽が出りゃわかるよ。

風人 いつ、芽が出る？

シグナル 毎日をやって、大事に育てるんだ。春になっ

たら、小さな芽が出てくる。芽が出たあとも、手を抜く

なよ。手を抜くとすぐに枯れてしまうからな。肥料をや

って、大事に大事に育てるんだ。そうしたら、どんどん、

でっかくなつていく。この家の前の、これの木みたいにかき。

風人　：　これの木が、パセリの木なら、こっちは、風人の木か。

シグナル　　そうだ。風人の木だ。

風人　ムーニイさんの沼からも、見えるかな。

シグナル　　ああ、きっと見える。

間

風人　なあ、シグナル。この場所は、俺にとって、鉄道の

ポイントみたいなものかもしれないな。

あの日、屋根裏

で、俺のポイントが動いて、線路が切り替わったんだ。

そのせいで、俺という汽車は、間違っただま走ってきて

しまった。そんな気がするよ。…　もう一度、試してみ

てもいいんじゃないかな。今、また、ここで、ポイント

を動かすことが出来たら、また、別の道が待ってるかも

しれないじゃないか。

…　シグナル、俺、ここに、住むよ。

シグナル　会社、遠いぞ。

風人　やめるよ。

シグナル　やめてどうするんだ。

風人　ここで、下宿屋をやるんだよ。おじさんのあとを継

いでき。

シグナル 続くかなあ。

風人 続けるき。みてろ。これがでつかくなれば、この家

の両側に、パセリの木と風人の木だ。おじさんの木と、

： 俺の木だ。

どこからかよびりんの音が聞こえてくる。始め小さく、次第に大きく。

パセリがよびりんをならしながら出てくる。

パセリ 飯だぞー。

パセリと風人、静かに対峙する。

家の両側に立っているパセリの木と、風人の木のように。

END